(大正八年三月七日第三種郵便物認可)

廿四ページ 日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四 編輯兼發行人 岡田成
印刷所 福島縣石城郡平町紺屋町十四 加納活版所
發行所 福島縣石城郡平町紺屋町十五 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊(日曜、祭日休刊)

大谷久藏氏彈劾の 急先鋒は教育家 藤田氏の態度を批難

平町信用組合は過般組合長大谷久藏氏の排斥問題が起り紛糾するに至つたので諸橋久太郎、鈴木辰三郎兩氏が仲に入り

組合長大谷久藏氏に業務上の過失があつたとしても將來之を默認する事

を條件として大谷久藏氏が組合長を辭職する事となり後任組合長として青沼鋒太郎氏が就任して問題が解決したが、組合員中平町藤田榮助氏外一二の人は大谷氏に反感を有してゐるためか問題解決後も大谷氏の糾彈を劃して止まなかつたものゝ如く、同氏等は急先鋒となつて大谷氏の欠点を曝露すべく奔走の結果二十三日午後組合事務所に幹部會を開き藤田氏の外三森虎雄外三氏出席の上大谷氏の欠点を摘發すべきや否やについて協議したと言ふが、大谷氏に欠点があるとすれば之を摘發する事は當然事として何人も首肯し得る事であるが、然し藤田榮助氏は女子五百余名の教育に從事してゐる藤田女學校長として苟くも他人の非行を曝くに急先鋒となり好んで之を爲すは教育家として謹しむべき事で殊に氏は平町青年團長で同團では二十五日磐中徒らに策を弄し人を排擊するの行爲に出でた人に前には平商業學校長吉田某あり、今回又々藤田氏を出した事は平町教育界の不祥事であると識者は慨嘆してゐる。

▲中堅農民講習會 石城郡中堅農民講習會第一回卒業生の同窓會は二十三日午前九時から平町元石城郡衙に開き大和田重雄、酒井專治、大山慶次郎各氏の講演があり、現地踏査の件について協議を遂げた。

午後七時頃千葉縣房州沖二百浬の沖合に於て猛烈な突風に遭遇し飛行困難に陷つたので風に委せて空中をさまよひ午後十一時頃漸やく難關を突破し千島列島に向つた旨同船から無線電信があつた。

有段者の 柔道講習會

石城柔道有段者會では二十四日から五日間毎日午後七時から十時まで平警察署に於て柔道講習會を開く筈で終了後昇段審査を行ふと。

警察署移轉跡の 國道編入を促進

地元紺屋町で運動

平警察署は九月中に元石城郡役所に移轉さるゝ事になり現在の敷地三百七十坪のうち六十坪は國道に編入して道路とする事になつてゐるが、國道編入の時期が未だ明らかになつてゐないので地元平町紺屋町では二十三日區民大會を開き協議の結果國道編入の促進運動を起す事となり委員として吉田寅之輔、柳下元吉、馬目雅治、關内喜久次郎、馬目玉彌の五氏をあげ、平土木監督所、平町役場、石城郡選出縣會議員に促進の件について陳情する事になつた。

▲蔬菜栽培講習 石城郡農會主催高等蔬菜栽培講習會(東京電話) 世界一週第三コース征服のためZ伯號飛行船は二十三日から三日間平町元石城郡役所に於て開催中で講師は十三日午後三時十二分霞ヶ浦飛東京農科大學教授古市末雄氏で行場を出發し北進して茨城縣大貫海岸に至り同所から鹿島灘を二十五日聽講生三百余名に修得證を授與すると。

Z伯號 突風に遭ふ

千島列島に向ふ

通過して大平洋上に出でたが、平商業學校商友會は學校の統轄を離れ獨立した最初の計劃として來る九月五日、六日兩日平町元商業學校に於て縣下ポスター展覽會を開催する事既報の如く委員をあげて縣下各町並に近縣都市大商店のポスター出品を勸誘中であつたが、縣内は福島、若松、郡山、白河、その他縣外では仙臺、山形、水戸、米澤等商工會議所並に個人商店から熱烈なる應援をうけ何れも喜んで出品を承諾したので目下出品物は山積してゐる有樣である。尙ほ地元平町は二十四日から出品を勸誘する事になつたが、平地方に於て初めての試みであるため各方面の人氣を博してゐるから開催の上は盛況を示すものと察せられてゐる。

縣下ポスター展 早くも人氣沸く

各方面からの出品物山積

▲署長の歡迎會 新任小田部中村警察署長と舊中村原町署長の歡送迎會は二十二日午後四時より伊勢屋に於て官民合同で開催盛會であつたと。

勇ましく飛込んだまゝ 浮き上らぬ男

魔の池で溺死

相馬郡大甕村字北原(俗に御本陣)と稱する處に大甕村一圓の水田に用する溜池は今より數十年前に築きたるものにして其面積一町歩余又深水は四十尺以上もある大溜池にて昔より此處に主が居て水泳する者は必ず毎年二三人呼び込むと云ふ怖ろしい池なるが、本夏より西山駒吉氏外二名が發起となりて遊泳池として之れにボート三艘を浮べ乘舟料を取りて毎日遊泳者を迎へ居りしが二十二日午後二時頃原の町新町大橋本三番地活版職工秋藏(十九)外一名と共に遊泳に赴きボートを浮べて中央にこぎ最も水の深き場所にて前記秋藏がザンブと許り飛込みたるに水底は氷の如き水質の場所柄とて其儘進退の自由を失ひ溺死するに至れるが、去る七月中に原町福山町長谷部敏(七ツ)も水底深く沈んで溺死したるが之れで本年は二人の死者を出したので二十三日助川署で保護中である譯なるが遊泳場とし水質及場所柄も研究せず開始したるは主催者の誤まりなりとて昨今批難漸やく高まりつゝあり。

親子四名の 死の跡を辿る

戲曲的な驛名の夜ノ森に今しも下車した母子四人連れ、末の子が無切符であつたので驛員にとがめられた、程なくその母子は線路傳ひに富岡驛方面指して歩んでゐた、二十一日夜九時近き頃である、欠け始めた滿月の光浴び哀愁いとゞ身にしむ虫の音は都育ちらしい三人の子供には良い道連れとなつたであらうが、我子の運命を知つてをる母親の胸中にはこの虫の音もみだの手引としか思へなかつたらう、そしてその面上にはすご味みなぎり、惡魔のほゝ笑を見たであらう、やがて年齒もゆかぬ子供等は疲勞や、さびしさや睡眠を訴へた。

× × ×

夜ノ森驛の遠方信號所を遙か後に線路近くの草むらに母子が腰を下ろした頃は月も大分上つた頃である、途中高萩で買つた汽車辨で腹をつくつた子供等は母親にいはれるまゝ疲れた身躰を横たえると直ぐすやすや眠つてしまつた、何といふ無邪氣さであつたらう

× × ×

翌朝三兒の慘殺死体が發見された、さうして、この可憐な三兒が東京人であつたことは遺留品中の繪本に書かれた東京亀戸内といふ文字で想像され、次いで發見された諸岡俊明と記入した雜記帳が被害小兒の名前であらうと係官は小躍りして喜んだ、それもこれも當て推量にすぎなかつたのであるが、日暮れて間もない七時半頃龍田、富岡驛間の金山トンネル口で線路工夫が偶然出會した女こそはこの恐ろしい悲劇のヒイロンではあつたのだ。

× × ×

即はち三兒の死体と對照した結果前夜、夜ノ森驛に下車した親子連れであつた事が判づたのである「私のゐなくなつた後はいゝ奥さんをお迎へ下さい」かうした遺書に包まれた秘密は、はなよ以外知るものはないだらうか。

▲佐藤署長の赴任 前原町警察署長佐藤平吉氏は今回二本松警察署長に榮轉し今二十三日午前八時四十分の下り列車にて家族同伴任地に出發せしが原町驛頭には官民多數の見送あり。

▲稅務署長送別會 武石前中村稅務署長は今回鶴岡に榮轉せしに依り二十三日午後六時より官民合同の送別會を伊勢屋に於て催したるが盛會裡に午後八時散會せり。

▲小僧逃走 石城郡磐崎村磐城炭礦小野田礦坑夫亥之助長男加瀨武夫(十四)は埼玉縣大宮鐵工場に雇はれ中酷使に堪えず原町に逃走し飲まず食はずで助川町まで來たが動けなくなつたので二十三日助川署で保護中である。

原町通信

都市對抗庭球出場者

郡山市軟球協會主催にかゝる郡山、平、若松、福島四市對抗庭球大會は二十五日郡山市に於て開催さるゝ筈で平から出場する選手左の如し。

（根本　大内　堀）
（奥津　木田　吉田）
（鴻池　阿部）
（鈴木　猪狩）

ロープ切斷事件の檢証

石城郡磐崎村三井炭礦に於て過般ロープが切斷し炭車が逆行したため四名の慘死者を出した事既報の如くであるが、二十四日午前九時平區裁判所高橋判事、武田檢事は平署若林警部補と共に責任者五十嵐重三郎を平刑務所から現場に連行し實地檢證を行つた。

山村暮鳥詩集『土の精神』

井上康文

暮鳥先生の詩は、切實な情感から溢れ出た動かすことの出來ない言葉で歌はれてゐる。この詩は人間のすべてに、正しく生きてゆくことの強さを感じさせるだらう。その美しい感激からの聲をあげて讀む詩である。その祈りに近い敬虔な心をもつて、靜かに讀み味はふ詩である。

暮鳥先生は「土の精神に」大自然からうける尊さを歌つた。人間の生きるその日々の力を歌つた。私はまづこの集の一章をあげて見やう。

朝餉の食卓

せいたくの　かぎりをつくしたものではないか
自分達のこの食卓は　青葱のいつものくさい味噌汁のほか
かうしてはるばる遠いコダテのともからおくられてきたばつかりの鈴蘭がまだいきいきと匂つてゐる
何といふ朝餉だらう
それだのに子ども達ちつとも幸福でないのを
さて、どうしたらよからう
私はこの朝餉の食卓をかこんでゐる人々を思ひ描くことが出來る。陽の明るい清々しい朝、小さい食卓の上におかれた鈴蘭の花、その香りがあるばかりに「せいたくをつくしたのではないか」と歌ふ。けれどこの詩人の感じた喜びの世界には子供ははいりきれない。子供たちは默々と「いつものくさい味噌汁」をすつてゐる。その「ちつとも幸福さうでない」子供を「どうしたらよからう」と心配してゐる自分の感じた幸福、それを感じない子供たちへの愛と寂しさ。この生活に對する清純な喜び、そして父としての深い愛情、暮鳥先生の詩には動かすことの出來ない強い信念がある。

「土の精神」一卷は「梢の巣にて」（大正十年）以後「雲」（大正十四年）以前の未發表の作を入れて遺族が編纂したものであるといふことである。先年水戸大洗の松林の中の暮鳥先生の詩碑の前に立つたときその石にきざまれた「雲」といふ詩句をよんで、いかにもその自然と大空に直面してゐる詩碑と暮鳥先生とがぴつたりしてゐることを感じた。いま暮鳥先生をしのぶ心を新にして、私は私の胸深く「土の精神」の詩數十篇をきざみつけた。

東京小石川白山前町　振替一五九九四番　東京　書屋　四六版二一九頁　小川芋銭先生挿畫裝禎美本　定價金貳圓

佛國マルソー會社元詰
酒葡萄生
マルソー・ブランク・白
マルソー・ルージ・赤
¥1.10
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

帝キネ、マキノ東亞の三部曲
東亞京都撮影所優秀作
原駒子、光岡龍三郎主演
劇時代　姐妃のお百　八巻
出舟千艘、入舟千艘、その度毎に黄金の雨が降る、河と橋との大阪の街を背景に描かれてゆく弱い女性が強く生きんとして已が生涯をあやまつた人間お百の物語りである。
帝キネ逸品　明石綠郎、嵐璃徳、松枝つる子
劇時代　村上喜劍　十五巻
周知の歴史美談は名優の演出によつて更に燦たり。
マキノ大作品　河津清三郎、桂武男主演
帝キネ、マキノ、東亞　韋駄天金太　八巻
劇時代　有聲座

貸家案内
舊城跡　勤人向　八圓五十錢
白銀町　商店向　二十圓
同　料理店　八十圓
同　旅館向
仲間町　勤人向　五圓五十錢
同　勤人向　四圓五十錢
同　五圓五十錢
同　十圓
鹿庇町　同　五圓五十錢
五丁目　同　金五圓
内郷村小島同　八圓
白銀町　加藤營業所

ビクター新譜着
モダン東京　誠に良い
丸の内メロデー　ジャヅソング
浪花小唄
蓄音器の修繕は安く良く早く
平　電話一九三番
大谷時計病院

雨露に晒す程強く吹く煙突
煙突は『朝日』
石綿セメント製
朝日煙突
絶對にはぜない！やけない！くさらない！
經濟的で火災の心配がない
特約店
久　釜屋商店　電話一九九三

營業種目　石炭、コークス、玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭　正味十貫目入　壹俵　金六十五錢
◎日本デ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス　コークス　壹俵　金壹圓參拾錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ　ツ　ノ玉炭　玉炭　大箱壹箱　金貳圓
▲配達ハ一俵ヨリイタシマス
平驛前　電話二三七
阿部石炭商店

八月廿五日ヨリ五日間
全商品を擧げて
夏物棚さらひ
三井呉服店

磐城共濟病院案内
内科　小兒科（院長毎日診療）
院長　醫學博士　難波睦
内科部長　醫學博士　中西林藏
外科　内臓外科、整形外科、皮膚泌尿科專門
外科部長　醫學士　氏家憲介
毎日曜手術　醫學博士　桂重次
産婦人科　女子泌尿科
部長　醫學博士　松枝茂
耳鼻咽喉科專門
部長　醫學士　井上俊次郎
毎日曜手術　醫學士　渡部貞助
X光線科　物理學的診療科
主任　醫學博士　難波睦
技師　工藤慶造
衛生試驗所　主任　中西林藏
衛生試驗所　技師　小熊英夫
藥局　藥局長　吉本孝平
本院醫事法制顧託　法學士　岡本院主事　賀澤忠蕃
衛生試驗所、病氣相談所、救療所（共濟病院内）　電話七二番
救療を申込るゝ方は當相談所へ御話し下さい
平南町　電話六四一番　磐城共濟病院
人院自炊ノ便アリ　看護婦見習募集

滋養、强壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「粟守酒」
朝の一盃は精力の根源、晩の一盃は休眠の助力
粟守酒特約店　大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢　平町一丁目（電四六二）